



多額の費用を要する学校 プール、今後のあり方は

三宅和広 議員

学校プールの改修には1

校当たり約8000万円の費用がかかる。耐用年数を40年とした場合、年間約200万円の負担となる。ほかに上下水道代や機械設備などの修繕費といった費用もかかる。プールを運用していくために多額の経費

を費やしている。

千葉県佐倉市、神奈川県海老名市などでは、学校プールを廃止し水泳の授業を校外のプールで実施している学校がある。

学校から校外のプールまでの移動手段をどうするか、カリキュラムをどう編

成するかなどの課題があるが、他市での事例を参考に、本市でも一つの学校をモデル校として実施してはどうか。

経費的なことのほかに

も、水泳指導を外部委託することにより、体育の専任教員がいらない小学校では教員の負担軽減が図れるのではないかと。また、プール跡地に屋根付きの多目的グラウンドを整備するなどすれば、冬期間もキャッチボー

ルやサッカーのパス回しができたり、災害発生時の避難場所としても利用できると。土地の有効活用といった点でもメリットがある。市の考えを伺いたい。

学校プールを廃止して
学外施設を利用すると

メリット

改修費用約8000万円が削減できる

教員の負担が
軽減できる

土地の有効
活用が図れる

デメリット

学校間で教育条件の格差が生じる

新たな経費と新たな教員の負担が生じる

相澤教育長 学校間の教育条件の格差をなくし公平な学習環境の整備を行うべきと考えており、学校プールを廃止し校外のプールを活用する考えはない。

また、将来的には再考する時期が来るかもしれないが、現時点では現在行っているプール指導で十分な成果を上げていると認識している。